

子どもに学びの場を

被災地
宮城・女川

NPOが夜間塾開校

東日本大震災で壊滅

的な被害が出た宮城県女川町の小学校で今月、小中学生向けの夜間塾「女川向学館」が開校した。月謝は無料で、授業は土日も含め毎日開かれる。

避難所や仮設住宅など落ち着かない環境で勉強する子どもたちに学習の場を確保しようと、NPOが立ち上げた。

開校した夜間塾「女川向学館」で勉強をする子どもたち。19日、宮城県の女川第一小

校庭に仮設住宅が立ち並び、校舎の一部が避難所になっている女川第一小。午後7時、1階の教室では中学生が熱心に講師の話聞いていた。授業は1こ

ま55分。生徒33人が通う2年生のクラスは講師も2人掛かりで、あちこちから「先生、分からない」と手が挙がった。

数学が苦手という中村葵さん(13)は「すぐ先生に質問できるし、授業のペースがゆっくりなので分かりやすい。(ここに通い始めて

テストの点数が上がりました」。避難所や仮設住宅などからも通えるよう、バス2台での送迎もある。

女川町では震災後、11あった塾が一つになった。町は当初、小中学生の自習の場として放課後の教室を開放していたが「世話役をする先生の負担が大き

く、学習の場をどう確保するか課題になっていた」(関係者)という。こうした声を受け、高校生向けのキャリア教育に取り組むNPO「カタリバ」(東京)が、町に塾の開校を提案した。運営費を個人や団体の寄付で賄い、

被災した地元の塾講師を雇った。応募した児童生徒約180人が通う。高校生にも広げる考えだ。

女川町教育委員会の担当者は「学校や塾の枠を超え、地域全体で教育に関わる場にした」と話している。